

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「学校全体で取り組む教育のUD」

1 教室環境のUD化

- (1) 教室内に不必要なものを置かない。前面の掲示物を精選する。
- (2) 黒板には、その時間に必要な情報だけを提示する。
- (3) 授業により集中できるように、チョークは白と黄色だけを使用する（2003年文部科学省が「色覚に関する指導資料」の中で、白と黄色のチョークの使用を奨励している）。
- (4) チャイムで始まり、チャイムで終わる。授業の延長はしない。



2 人的環境のUD化（教師の指導行為）

- (1) 子どもたちがまねをしやすくなるように、全体で教師が指示を出すときは、他の教師も「聞く態度」を子どもに見せる。 **教師がやってみせると、説得力がある！**
- (2) 1回の指示は、短く、一つだけ出す。聞き逃しを防ぐために、必ず確認して、次の指示を出す。 **ワーキングメモリの容量は、どの学年でも5歳前後の個人差が存在する！**
- (3) できたこと（頑張ったこと）、やろうとしたことを積極的にほめる（全体へも紹介する）。
- (4) 指導をする際には、まず子どもの理由を聞く。子どもの行為には、必ず理由がある。
- (5) しつこく注意しない。嫌味（皮肉）を言わない。注意すること、叱ることを絞る。
注意をする場合は、なぜ注意をするのか説明する。なんでもかんでも注意しない！

3 授業のUD化

- (1) 1時間の授業の見通しをもてるように、また、途中で注意が逸れても、「今」が分かるように、黒板横に本時の活動の流れを提示したり、「今」活動している内容に磁石を付けたりする。
- (2) 子どもが安心して取り組めるように、「問題をつかむ→一人で考える→学び合いを通してみんなと確かめる→まとめる」など、教科ごとにパターン化する。
- (3) 子どもの覚醒レベルを上げ、主体的に取り組めるように、絵・写真・動画・具体物等の視聴覚支援を積極的に行い、聞くよりも考える、作業する時間を増やす。
- (4) 子どもが集中して取り組めるように、漢字練習を5分間、音読を5分間のよう、授業をパーツで構成する。区切りが明確になり、気分転換にもなる。

4 良好な保護者関係をつくるUD化

- (1) まずは話をじっくり聴き、自分の意見は言わない。
- (2) 頑張ったことや努力していることを積極的に伝える。
- (3) 子どもの課題は、担任の課題として伝える。「これは〇〇さんの課題というより、私の課題なのですが・・・」
- (4) 言い訳、反論はしない。一緒に考えていくというスタンスを貫く。
- (5) 気になることは、必ず連絡する。



参照：「特別支援教育研究」2024.5

**とれたて直送便****「伝わる言葉とは・・・」**

2022年夏の全国高校野球選手権大会で東北勢初の優勝を果たした仙台育英高校の須江航監督の言葉です。子どもに『叱る』『怒る』は響かない。言葉で説明する必要がある。「伝わる言葉は相手の聞きたい言葉」として、自分の気持ちや経験から言葉を探すのではなく、普段から相手が何を考えているか想像して話を聞くことで、伝わりやすい言葉やタイミングを見付けられる。

子どもが納得できるように言葉で伝えていきますか。大切なのは、子どもの「納得感」です。教師の指導に「納得」すれば、それは教師への信頼につながっていきます。